

令和3年度第1回芽室町総合教育会議

日 時 令和3年6月24日(木) 16時5分から16時40分まで

場 所 芽室町役場2階会議室7

出席者	芽室町長	手島 旭
	教育委員会 教育長	程野 仁
	教育長職務代理者	西村 嘉博
	委員	鳥本 和宏
	委員	福井 栄子
	委員	松久 大樹

(事務局)	教育推進課長	有澤 勝昭
	生涯学習課長	日下 勝祐
	政策推進課長補佐	佐々木 雅之
	政策推進課政策調整係主事	佐藤 拳伍

(説明員)	子育て支援課長	杉山 ゆかり
	子育て支援課子育て支援係長	大浦 啓介
	子育て支援課子育て支援係主査	莖田 千春

議事録

1 開会

要綱第4条に基づき、町長が議長になり進行

- ・コロナワクチンの接種進捗は、想定より早く接種できている。
- ・各自治体力をいれており、芽室町は遅くはないが、早くもない。
- ・芽室町内のワクチン接種枠も広がっており、当初集団接種は120人分であったが、最大270人分までとなっている。
- ・芽室西中学校でクラスターが発生した。このことから、教職員や保育士、児童福祉施設従事者に対して、優先接種を検討している。本来、教職員等の接種順位は第4順位であるが、基礎疾患者と同等の第3順位にするというもの。理由は、12歳以下はワクチンを打てない状況であるため、大人がウイルスを持ち込まないという観点から、教職員等の接種優先度を高めようとするため。

2 議題

(1) 芽室町における児童虐待対応について

子育て支援課より別紙「虐待対応の手引き」を説明

手島町長	現在、本町の状況としてデータは？
大浦係長	虐待相談件数として、R2：12件、R1：31件、H30：29件。 個別ケースの検討会議は、R2：3件、R1：6件、H30：13件。 両方の児童数は、R2：19名、R1：42名、H30：39名。
程野教育長	通報ではなく、相談とは？

- 大浦係長 学校や近所などから「こういった話を耳にしているが、どうなのか。」や「近隣で物音がするが、どうなっているのか。」など。
- 程野教育長 相談後が問題だと感じている。関係機関も含めて、どの程度改善に向かったのか。このあたりの追跡は？
- 大浦係長 ケースによっては、児童相談所に報告して指示を受けている。また、保護者との面談や、子どもに傷があるか等も確認している。さらに引き続き注意が必要であると判断した場合は、学校と連携している。
- 杉山課長 町内で件数が多い年は、虐待というよりも保護者がネグレストになるケースがある。保護者が精神的に不安定になることで、子どもを育てることができなくなり、児童相談所にて子どもを預けるケースがあった。
- 程野教育長 難しい問題であり、限界があるのかもしれないが、関係機関との連携に期待する。学校に虐待対応の手引きのアセスメントシートについて、まだ有効に活用されていないと思うため、校長会・教頭会にて説明しようと思う。
- 西村委員 小中学校での様子は先生を通してある程度子どもの様子が見えている部分があると思うが、子育ての段階や保育園、保育所で気になる点があった場合、どのように情報を小中学校へ連携・共有させていくか。
- 莖田主査 私は子育て支援課で地域コーディネーターという立場。主に発達支援システムという取り組みを進めており、芽室に生まれた子どもが大人になるまで、その時々で必要とする支援を関係者で情報共有を大人になるまで続けていくというもの。その中で、母子手帳の交付から中学校まで、虐待や家庭の支援が必要な子どもに対して縦と横のつながりを丁寧に行っている。
- 手島町長 幼稚園・保育所など通所している状態であれば、休みが多いことなどで「どうしたのかな」と気付きのきっかけもあると思うが、生まれてすぐの場合は、このシステムによって子どもの状態を把握していく仕組みである。
- 松久委員 すごく考えられているシステムであることは理解した。また、幼稚園教諭や保育士と小中学校の教員が直接やりとりする場合は？
- 莖田主査 小中学校入学前は幼稚園教諭や保育士から小中学校の教員へ、個別情報の引継ぎがある。そこには子育て支援課や教育委員会も介入し、情報・記録が残るようになっている。
- 松久委員 小中学校入学後、しばらく経った後に子どもの様子に気づくことが多いと思う。その場合の連携は？
- 莖田主査 お見込みのとおり、入学前の引継ぎよりも入学後に、子どもの異変に気づくことがある。そのため、6月・7月頃に入学後のカンファレンスを設けている。また、小学校の教員から子育て支援課に相談があれば、幼稚園教諭等と小学校教員の先生が話す機会を設けている。
- 鳥本委員 コロナ禍もあり、子どもだけではなく大人も精神的に不安定な状況である。大人のケアも考えていかななくてはならない。
- 手島町長 子どものことをきっかけに、家庭の生活環境や経済状況も考える必要がある。子育て支援課だけではなく、生活保護であれば健康福祉課であるし、就職先を探すなどであれば商工労政課。役場全体で連携する必要がある。
- 福井委員 先ほど子育て支援課から虐待の相談件数の報告がありましたが、実際の人数としては？
- 大浦係長 R2 では12件相談はあるが、実際の人数は19人。実際には1つの相談で兄弟の

場合等もあり、相談件数と実際の人数は一致していない。

福井委員 子どもの「聞こえてこない声」に対処できるように社会全体で子どもたちを見守っていききたい。

西村委員 虐待とは対照的であるが、ヤングケアラーの問題もある。子どもが親族の介護をしなければならない場合など、様々な問題があり、子育て支援課だけでは対応できないケースもあると思う。横のつながりによる情報連携・共有必要となっている。

手島町長 芽室町内ではヤングケアラーは該当状況を把握していないが、今後、悲惨な事態となるケースの出現は否定できない。この手引きにもあるように、まず異変を見つけ出し、色々な方面から手助けしていく必要がある。また、こちらからアプローチしていくことが重要である。現在も保健師や莖田先生が積極的に訪問、対話をしているから、情報の洩れは少ないと感じている。

近年の出生数も少なくなっていることはあまりいいことではないが、数が少ない分ケアもしやすい状態にあると言える。

程野教育長 元学校現場にいた身として、芽室町は子育て支援課や教育委員会等の関係機関の連携により、早急に対応いただき素晴らしいと感じていた。現在は莖田先生方がおり、さらに強化されていると思っており、非常にありがたい。虐待の手引きのアセスメントシートを利用し、積極的に察知していくことが大事だと思う。子どもの虐待の他、親のDV等によって精神的に虐待状態もあるかもしれない。地域でセーフティーネットが必要であり、今後も連携をお願いしたい。

### 3 その他

事務局より、今後の総合教育会議日程として、11月と翌年2月（合計3回）を予定としていることを説明。

### 4 閉会

16:40終了